



新しい絵本

2023年10月吉日
松原ひかり幼稚園

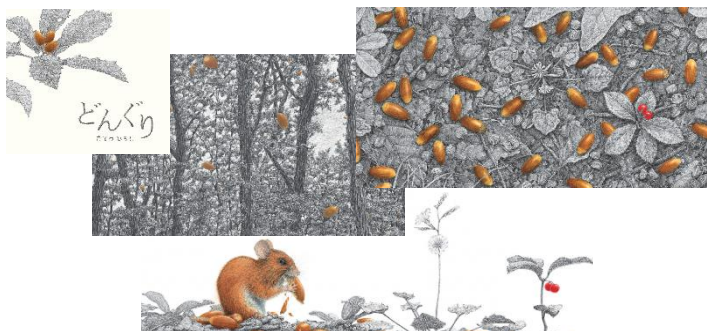
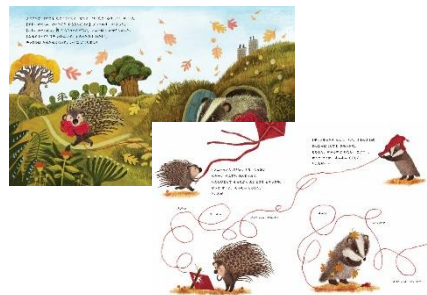


読書の秋、幼稚園に新しい絵本が届きました！ 絵本の時間に自分で読むのもよし、先生に読んでもらうのもよし、お気に入りの絵本が見つかるといいですね。心に響く‘ことば’や‘シーン’は子どもの成長の糧になるはずです。一度読んだ本も、年月を経て読むとまた感じ方が変わり、理解が深まるものです。

そして、乳幼児期の子どもたちはお家の方に読んでもらうのが一番嬉しいのです。お子様との触れ合いにぜひ一緒に絵本を読んであげてくださいね。

『赤いけいとでつながって』(新刊) リサ・モーザー 文 オルガ・デミドヴァ 絵 よしい かずみ 訳

「ひっぱらないで！やさしさが ほどけちゃう・・・」
なかよしのアニーとチックルは、ころころ転がってきた赤い毛糸をそれぞれ拾ったことから、友情がもつれてしまいます。はたして2人は仲直りできるでしょうか。



『どんぐり』 たてのひろし 作 (新刊)
『森に風が吹く 森に音がする 森がうごめく 死んでいく 生きていく』この絵本には文がありません。本を開いたとたん、精密な美しい絵に魅せられて、森の匂い、木々がうごめく様子、葉擦れの音を感じます。落ちてくるどんぐり、どんぐりを食べる動物、葉を食べる虫、しずかな森の中でひっそりと生き物は死んでいき、生まれてはまた生きていく。めぐる生命の気配を感じる絵本です。



『ねことことり』 たてのひろし 作
なかの真実 絵
『第28回日本絵本賞』2023年受賞作品。
こちら繊細なタッチの色鮮やかな絵本です。
ねことことりが共に生き、心が通じ合う様がドラマチックに描かれ、読む者の心にパーッと明かりを灯します。

『おおきなおおきなおもい』
赤羽末吉 さく・え
おもいと言えば「おもい掘り」秋の遠足の定番です。幼稚園では、おもい掘りにちなんでお絵描きをしたり、おもいを作ったり、どんなお料理があるか思い出したり想像したり、クッキングしたり・・・さまざまな取り組みをします。そんな様子を絵本にしてあります。この絵本を読んで子どもたちの取り組みへの意欲が湧いてくるといいですね。



『おたすけこびとのクリスマス』
たけうち ちひろ 文 コヨセ ジュンジ 絵
子どもたち大人気の「おたすけこびと」シリーズ第2弾。
クリスマスの夜にお仕事を頼まれたこびとたち。
「はい、おまかせください」「さあ、しごとだ！」
誰かを喜ばせるために、せっせと働きます。小さくても大勢の力を合わせれば、こんなに大きな仕事もやっつけられる頼もしいお話です。

『ぱんどろぼうとほっかほっカー』 柴田ケイコ

ぱんどろぼうシリーズの最新号。「ほっかほかのパンとほっかほかの思いをのせて、はしりだす！」山超え谷超えパンを届けに行くぱんどろぼうくんに何がおこったのか。パンを運ぶ車がで
けるのかな??それとも??みんなで読んでみましょう。



「いいから いいから」 長谷川義史

「せかいをへいわにする ほんきのあいことば『いいから いいから』」「おこってはいけない だれかがおこるとだれかにでんせんして だれかがまたおこる・・・な～んにもいいことない」
かみなりの親子をもてなすおじいちゃんは、『いいからいいから』と気前がよい。が、しかし、気が付くとおへそを取られていた!「このままではプールにも行けない、かえるになってしまうかも・・・」さてこのあと、どうなるのでしょうか・・・

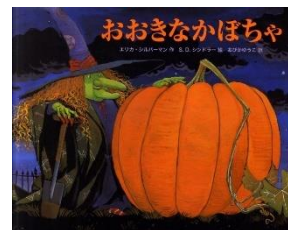
「だれのせい?」

ダビデ・カリ 文 レジーナ・ルック・トゥンペレ 絵
ヤマザキマリ 訳

『すべては思っていたとおり、とはいきません。わたしたちは思い通りにならないことを受け入れるのが不得意です。生き方も人間関係も世界の情勢も、思い通りにならないものは全て不満の要因となり、その原因を何かのせいにしないと気がすみません。自分のせいではなく、誰かのせい・・・』

この絵本の主人公「くまの兵士」もそうでした。しかし、『自分を不快にさせた「誰か」を懲らしめるつもりでいた「くまの兵士」は、やがて問題の根源は自分自身にあったことを自覚し、罪の償いを経て平和な世界へ行きつきます。』

自我や名誉のためという驕りを捨てる勇気を持った「くまの兵士」の変容ぶりに心動かされ、「こんな優しい世の中であつたらいいのに」と思わずにはおれません。



「おおきなかぼちゃ」
エリカ・シルバーマン作
S.D. シンドラー絵
おびかゆうこ訳

子どもたちお馴染みの「おおきなかぶ」のかぼちゃ版です。
小さいお子様でも楽しめます。



「えんそくバス」

中川ひろたか 文
村上康成 絵

楽しい楽しい遠足の前夜、園長先生はワクワクしすぎて寝付けませんでした。案の定、寝坊してしまった～!さて遠足の顛末はどうなるのか・・・園長先生もたまには失敗します!



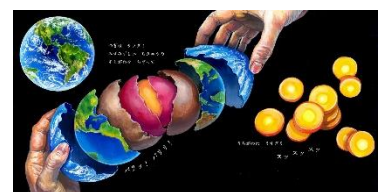
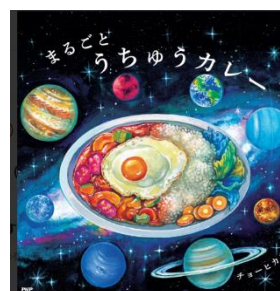
「みつけたぜ!」(新刊)

作 バレリー・サンソネ 絵 ダニエル・スボトン

お友達や先生、お家の人とやってみよう。集中力、記憶力、観察力、識別力、忍耐力を育む探し絵本

「まるごと うちゅうカレー」 チョーヒカル

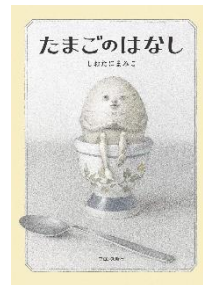
「じゃない!」の作者の最新絵本です。「わくせいを食べ尽くせ!」すいせい、きんせい、ちきゅう・・・みんな食べられる? この絵本を読んだら、あれあれ今度は、みんなの食べる具材が惑星に見えてくるかもしれませんね。発想の転換力、想像力を育む新感覚の食べ物絵本。



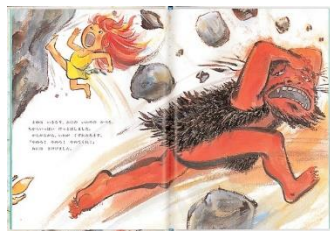


「がっこうにまにあわない」ザ・キャビンカンパニー
第28回日本絵本賞 2023年受賞
ダイナミックな絵に目を奪われます。たった13分間の道のりが分刻みで大冒険のように描写されています。どうしても遅れたくない思いの中、途中どんなに怖くても苦痛でも諦めずに果敢に駆け抜ける。これから小学生になる子どもたちにも、新生活への憧れ、期待を掻き立てる絵本となりそうです。

「さかなくん」しおたに まみこ
MOE 絵本屋さん大賞 2023年(第3位)受賞作。
さかなくんは、水のはいったガラスの重いヘルメットをかぶり、うすい足ひれで歩いて行きます。がっこうは好きですが、たったひとつ嫌いな事があります。それは『たいうく』。みんなみたいに早く走れないことが嫌で苦痛なのです。
この学校には、人間だけでなくいろいろな動物が通っていて、それぞれ得意不得意があり、みんな優しく助け合って生きています。ほんわか心に染み入るお話です。柔らかく優しい鉛筆画が読み手を夢心地にさせてくれる癒しの絵本。

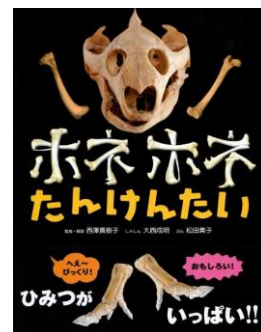


「たまごのはなし」しおたに まみこ
ブラチスラバ世界絵本原画展 3席
第27回日本絵本大賞 2022年受賞作、ほか多数受賞。
まず、たまごの絵が可愛いです。みんな起きて～！一番に目覚めたたまごとマシュマコの行動とやりとりが面白く、いかに私たちは既成概念にとらわれているかと考えさせられます。



「まゆとおに」やまのむすめ まゆのおはなし
富安陽子 文 降矢なな 絵
「おにに食べられそうになっている「まゆ」は、そうとも知らず、「おに」が困っていることをいとも簡単にやってのけ、助けます。やまのむすめ「まゆ」は「おに」より数段上手なのです。お腹がペコペコな鬼はそれでも「まゆ」を諦めません。「まゆ」は無事なのでしょうか。読んでのお楽しみ。カッコイイ「まゆ」に魅了されます。

「ホネホネたんけんたい」
監修/解説 西澤真樹子 写真 大西成明 文 松田素子
「ホネには ふしぎが つまってる ホネにはひみつが ひそんでる ホネホネたんけんたい しゅっぱーつ！」
前回購入した絵本は骨のシルエットで動物や恐竜を当てる絵本でしたが、今回は本物のホネの写真から動物の秘密を探ります。



「まくらのせんじん」そこのあなたの巻
かがくい ひろし
「まくらのせんじん」さまと2人のおとも、しきぶとんの「しきさん」とかけぶとんの「かけさん」が、困っているものたちを助けるほのぼの話。